
第65回（令和5年度）

東京都保育研究大会

「すべての子どもの権利と育ちを
保障していく社会の実現」をめざして

開催要綱

〔日程〕 令和5年6月20日（火）・21日（水）



※お申込みのプログラムにより日程が異なります。詳しくは内面「5. 本大会の全体スケジュール」をご確認ください。

〔主催〕 社会福祉法人 東京都社会福祉協議会

東京都保育研究大会は、1954(昭和29)年7月に東京・新宿で開催された東京都保育事業緊急大会を起源としています。
開始以来、都内の公私立保育所関係者が集まり、保育と子ども・子育てのあり方の研究の場として開催しています。

第65回(令和5年度)東京都保育研究大会 開催要綱

1 主題	「すべての子どもの権利と育ちを保障していく社会の実現」をめざして																			
2 趣旨	<p>令和2年から始まった新型コロナウイルス感染症は拡大縮小をくり返し、現在でも社会生活に様々な影響を与え続けています。保育現場への影響も大きく、各園でも感染症対策を行い、新しい生活様式を取り入れながらも、保育の質を落とさないように努力され、日々の保育に取り組まれていることと存じます。</p> <p>このような状況下でも、新しい取り組みへの様々な保育実践が各地で報告されています。事態を前向きに捉え直し、新しい実践へと結びつけていく姿勢が保育現場にも求められているように思います。</p> <p>前回の大会は感染拡大によりオンラインでの開催となりましたが、今回はより質の高い研究を目指し、分科会については集合型での実施としました。各テーマに沿って議論し研究を深め、また参加者同士での交流を図る機会となれば幸いです。</p> <p>本大会は、すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざし、保育内容の充実、保護者・地域への支援、小学校への接続、安全管理等の現状を取り巻く課題について学び合い、専門性の向上を図り、保育関係者の連携を深めることを目的として開催します。</p>																			
3 主催	社会福祉法人 東京都社会福祉協議会																			
4 後援	東京都(予定)・社会福祉法人 全国社会福祉協議会(予定)																			
5 大会スケジュール	全体会【オンデマンド配信】 <small>※下記の時間数は見込みです。</small>			分科会【集合型】 <small>※下記の時間数は見込みです。</small>																
	開会式	30分		1日目 令和5年6月20日(火) 第1・2・3・6分科会																
	基調講演	120分		2日目 令和5年6月21日(水) 第4・5・7・8分科会																
	記念講演	90分																		
<分科会スケジュール> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 12.5%;">13:00</td> <td style="width: 12.5%;">14:00</td> <td style="width: 12.5%;">14:30</td> <td style="width: 12.5%;">14:40</td> <td style="width: 12.5%;">15:40</td> <td style="width: 12.5%;">16:40</td> <td style="width: 12.5%;">17:00</td> </tr> <tr> <td>研究発表</td> <td>質疑応答</td> <td>休憩</td> <td>助言者講演</td> <td>グループワーク</td> <td>まとめ</td> <td></td> </tr> </table>							13:00	14:00	14:30	14:40	15:40	16:40	17:00	研究発表	質疑応答	休憩	助言者講演	グループワーク	まとめ	
13:00	14:00	14:30	14:40	15:40	16:40	17:00														
研究発表	質疑応答	休憩	助言者講演	グループワーク	まとめ															
6 会場	国立オリンピックセンター記念青少年総合センター センター棟会議室等 (渋谷区代々木神園町3-1) ※上記会場にお越しいただくのは分科会のみです。全体会はオンデマンド配信となります。																			
7 対象者	東京都内公私立保育所関係者、福祉・保健・教育・行政関係者、社会福祉協議会関係者、保護者、研究者、学生、その他保育関係者																			
8 運営	この大会は、東京都社会福祉協議会保育部会常任委員会と大会企画委員会を中心に、保育部会地区委員、会員保育所各位の協力によって運営されます。																			
9 参加費	東社協保育部会 会員 1人 6,000円 / 非会員 1人 9,000円(税込) ※全体会若しくは分科会のみという方法でのお申し込みはお受けしていません。 ※分科会へのご参加について、開催日が異なる分科会で2つ以上のお申し込みを希望される場合には上記参加費に2,000円を追加してお支払いいただくことで可能となります。																			
10 定員	・感染防止のため分科会の会場の広さにより定員を設定いたします。基本的に先着順となりますので、お申し込み時点で第1希望の分科会が定員に達した場合、第2希望の分科会での決定とさせていただきますのであらかじめご了承ください。 ・同一の参加者が1日目・2日目の2つの分科会へのご参加を希望する場合、「9参加費」の通り追加費用をお支払いいただくことでお申込みいただけます。																			

<p>11 申込み</p>	<p>下記の申込サイトから、お申込みをお願いします。 ※本サイトは、主催者が参加取りまとめ・参加費徴収の事務を委託する下記の業者で作成されたページです。 (申込サイト URL) http://www.mwt-mice.com/events/t-hoiku2023</p>  <p>【お申込み受付期間】 令和5年4月7日(金)～5月10日(水)</p> <p><お申込みにあたっては下記をご確認ください></p> <ul style="list-style-type: none"> ・申込受付完了後、登録されたメールアドレスに受付完了メールが届きます。1日を経過しても届かない場合には登録メールアドレスの誤りか、登録が完了していない場合がありますのでお申し込み状況についてお問合せ下さい。 ・ご参加いただく分科会が決定した後、参加決定及び参加費のご入金についてのご案内をメールにてお送りします。そちらに記載の銀行口座にお振込みをお願いします。なお、振込み先は主催者が事務を委託している業者の口座となりますのでご注意ください。 ・参加費のご入金を持って正式な申し込みと致します。 ・原則として、ご入金後の参加費は返還できませんのでご了承ください。 ・参加費の入金確認ができない場合、当日ご参加がいただけない場合がございます。振込案内を確認いただけましたら速やかにお振込みをお願いいたします。 ・参加費の領収証は、原則として金融機関の振込の控えをもって代えさせていただきます。特に領収証が必要な場合は、別途本研究大会主催事務局までご連絡ください。 ・本会発行の請求書や所定の書式への押印が必要であれば、申込時に必要事項をご記入の上、ご連絡ください。 ・誤入金等によるご返金の必要が生じた場合、恐れ入りますが振込手数料をご負担いただくこととなりますのであらかじめご了承ください。 	
<p>12 その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会動画視聴にかかる専用ページへのログイン情報についてはご登録のメールアドレス宛にご案内いたします。 ・分科会ご参加にあたっての参加券を後日郵送にてそれぞれお送りいたします。 	
<p>13 その他</p>	<p>開催内容について</p> <p>参加申込・お振込みについて</p>	<p>社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 保育部会 事務局 (TEL)03-3268-7174 (FAX)03-3268-0635</p> <p>名鉄観光サービス株式会社 MICE センター 申込受付係 〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル内 (TEL) 03-3595-1121 (FAX) 03-3595-1119 受付時間:平日 10:00～17:00・土日祝日休業</p>
<p>14 会場図</p>	<p>国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟会議室(渋谷区代々木神園町 3-1) 【アクセス】小田急線「参宮橋」駅より徒歩7分</p> 	

◆プログラム◆

◆第1部 開 会（オンデマンド配信掲載期間：6月1日（木）～30日（金））

- 開会挨拶
東京都社会福祉協議会保育部会部会長
- 来賓祝辞・行政説明
東京都福祉保健局 少子社会対策部保育支援課長(予定)

◆第2部 基調講演（オンデマンド配信掲載期間：6月1日（木）～30日（金））

「自己肯定感を育む 保育について」

講師

子どもとことば研究会 代表
今井 和子(いまい かずこ) 氏



いま自己肯定感が重要視されています。

日本の子どもたちは、アメリカ、中国、韓国と比べ自己肯定感が低いという意識調査報告があります。それは、乳幼児期にどれだけ大人たちと信頼関係を築いてこられたかに起因するのではないのでしょうか？

自己肯定感は、本来、人に備わっているものではなく、人とかかわりの中で育つもの、育てられるものです。自己肯定感を育むのは、人としての土台が築かれること。0歳児から6歳児の保育こそが、そのカギを握っています。

乳幼児の自己肯定感の育ちについて、またそれを支える保育者のかかわり方について今改めて皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

〔プロフィール〕

「子どもとことば研究会」代表。20年余り、公立保育園で保育者として勤務後、お茶の水女子大学非常勤講師、東京成徳大学教授、立教女学院短期大学教授を歴任。全国の保育者研修を精力的に行っている。主な著書に『0歳児から6歳児の自己肯定感を育む保育』（小学館）、『遊びこそ豊かな学び』DVD付（ひとなる書房）、『0歳児から5歳児 行動の意味とその対応』（小学館）などがある。

「絵本を通して伝えたいこと」

絵本作家
小風 さち 氏



福音館書店
「こどものとも」編集長
関根 里江 氏

先生方はいつも子どもたちとどんな絵本を楽しんでいますか？ 読んでもらった絵本の記憶は、先生の声とともに子どもたちの心の奥深くに刻まれ、一生その子を励まし続けてくれます。子どもと絵本のすてきな出会いのためには、どんな絵本を選んだらいいのでしょうか。この機会に皆さんで考えられたらと思います。

また、児童文学作家・小風さちさんをお迎えして、自著の赤ちゃん向け絵本『ぶーぶーぶー』、年少児向け絵本『わにわにのおふろ』、年中・年長児向け絵本『とべ！ ちいさいプロペラキ』を朗読していただき、その創作の舞台裏について、お話を伺います。最後には近著『ゴリラ』もご紹介いたします。絵本づくりのお話を通じて、作り手の思い、子どもたちへの思いを感じていただけたら大変嬉しく思います。お楽しみに。

〔プロフィール〕

小風 さち 氏

1955年東京に生まれる。1977年から87年まで、イギリスで暮らした。絵本の著書に、『わにわにのおふろ』など「わにわに」シリーズ、『とべ！ ちいさいプロペラキ』『ぶーぶーぶー』『はしれ、きかんしゃ ちからあし』『よ・だ・れ』『あむ』（以上福音館書店刊）など、翻訳絵本に、『みつつのねがいごと』（岩波のこどもの本）、『ちいさなきしゃとおおきなおきやくさん』『おおきな3びき ゆうえんちへいく』『ジェシカといっしょ』（以上徳間書店刊）などがある。長編ファンタジー『ゆびぬき小路の秘密』（福音館書店刊）で1994年野間児童文芸新人賞受賞。東京都在住。

関根 里江 氏

1966年埼玉県に生まれる。早稲田大学卒業後、福音館書店に入社。自身の幼年期、また子育て中にたくさんの絵本を楽しむ。月刊物語絵本「こどものとも」「こどものとも年中向き」シリーズの編集に25年以上携わる。現在編集長。編集した本に『バルバルさん』他西村敏雄さんの絵本、『ガオ』他田島征三さんの絵本、『木』、『ねこどけい』、『ちょっとだけ』、『でんしゃにのったよ』、『おばけかぞくのいちにち』他おばけかぞくシリーズ、『ひともじえほん』、『はちかづきひめ』、『もじもじこぶくん』、『ひとりでおとまり』他まるやまあやさんの絵本、『まどのむこうのくだもの なあに？』など多数。東欧、中東、アジアの昔話絵本も手がける。東京都在住。

◆第4部 分科会（会場集合型 ※開催日程は「5本大会の全体スケジュール」参照）

1 子どもの育ちを保障する

保育所の大きな役割は、子ども自身が自ら伸びようとする主体的な力を引き出し、将来、人と手をとりあって社会の中で生きていくための、基礎となる力を育てることです。子どもの発達支援を中心に据えた保育を展開するために「質の高い保育」について研究を深め、その保育を実践する人材を育成し、研修の充実を図ります。

「すべての子どもに向けて新たな時代の保育実践」～保育所保育指針に基づく質の高い保育を提供する～

- ① 質の高い保育のあり方について研究をすすめ、実践に繋げる
- ② 自己評価等を研究・活用し、保育の質の向上をすすめる
- ③ 利用者の個別ニーズに対応した、きめ細かな保育を提供する

第1分科会 保育所保育指針と保育実践を考える — 0歳児 —

【助言者】 東京成徳大学 子ども学部 教授 善本 眞弓 氏

【発表者】

1. 社会福祉法人高洲福祉会 練馬区立豊玉保育園(練馬区)
「少しでも安心できる環境とは？0歳児にとっての主体性とは？」
2. 社会福祉法人ダビデ会 昭島ナオミ保育園(昭島市)
「すごいぞ！0才！～運動あそびとその効果」

第2分科会 保育所保育指針と保育実践を考える — 1歳児 —

【助言者】 川口短期大学こども学科教授 加藤邦子 氏

【発表者】

1. 新宿区立中落合第二保育園(新宿区)
「1歳児の“やりたい”が実現する保育環境を目指して」
2. 社会福祉法人たつの子会 西東京市みどり保育園(西東京市)
「乳幼児期における愛着関係の育生を考える」

第3分科会 保育所保育指針と保育実践を考える — 2歳児 —

【助言者】 青山学院大学教育人間科学部教育学科准教授 高櫻 綾子 氏

【発表者】

1. 北区立桜田つぼみ保育園(北区)
「子どもが遊びこめる園庭環境」
2. 社会福祉法人芳美会 花の木保育園(町田市)
「～カタツムリと大根と、とにかく食べたい子どもたち～」

第4分科会 保育所保育指針と保育実践を考える — 3歳以上児 —

【助言者】 白梅学園大学 こども学部 教授 師岡 章 氏

【発表者】

1. 杉並区公立保育園自主勉強会グループ(杉並区)
「子どもの遊びと運動3660質と量」
2. 社会福祉法人志正会 大久野保育園(西多摩郡)
「つながり保育」を通じたあそびと生活 ～幼児期と小学校の接続を大切に～」
3. 社会福祉法人こうほうえん 新砂保育園(江東区)
「子どもと取り組むSDGs！」

第5分科会 配慮を必要とする子どもや家庭への支援にむけて

『保育現場において、さまざまな配慮を必要とする子、発達に課題のある子の増加が報告されています。

日々の保育における、子どもへの関わり方に関して、園全体で共通理解を図るとともに保護者の抱える子育て上の悩みを受け留めながら、信頼関係に基づく支援を実施してゆく保育が求められています。

保育は、子どもの家庭を支えています。その園での生活体験が、障がいを抱える子ども一人一人の発達を支え、そして、同じ時間を共有しながら一緒に過ごしている元気なお友達との互いの成長を支え合っています。

保育は、みんなの明日へと繋がっています。みんな一緒に生きてゆくために！！』

本分科会では、困難を抱える子ども、その保護者への具体的支援を目指して、現場の実践報告から知見を深めたいと考えています。

【助言者】 臨床発達心理士・スーパーバイザー 橋場 隆 氏

【発表者】

1. 世田谷区立松沢保育園(世田谷区)

「医療的ケア児の就学への支援～入園時からの就学へ向けての支援を振り返る～」

2. 北区立桜田保育園(北区)

「配慮の必要な子どもが友だちとの関わりによって育っていく姿」

第6分科会 職員の資質向上を図る

これまで待機児童解消に向けて多くの保育所が新設されてきましたが、近年では待機児童は減少傾向にあり、量の問題は解消されつつあります。また、就学前の豊かな経験が後の人生に大きな影響を与えること、幼少期の非認知能力の向上が大事であることが明らかとなっています。このような中、現在、就学前の保育は、量から質へと大きな転換が図られています。今後、保育の質の中核を担う保育所職員一人ひとりの資質向上、チームワークの形成に加え、園組織のマネジメントがより一層求められるといえるでしょう。

本テーマでは、保育所職員の資質向上に向けた効果的・具体的な実践、そして保育従事者に求められる自己啓発のための取組みについて、研究を深めます。

【助言者】 東京家政大学子ども支援学科 准教授 小櫃 智子 氏

【発表者】

1. 練馬区立光が丘第五保育園(練馬区)

「主体的に躍動する子どもたち」～子ども主導の活動を援助する保育～

2. 社会福祉法人ちとせ交友会 グラン仙川保育園(調布市)

「職員のチームワーク構築(自園とエリア園との構築)と子どものepisodetalkの積み重ねから見える保育者の観察視点の向上」

2 多様な連携と協働で、子育てライフを支援する

子どもが心身ともに豊かに成長するためには子どもと家庭を一体的に捉えて、その家庭を支援することが必要です。また、子育てへの不安や児童虐待への対応等、子育て家庭への支援は地域社会を基盤とする多面的な取り組みの充実が求められています。保育施設は様々な機関・組織・団体や住民が連携し、子育て支援の拠点として、すべての家庭を対象とした取組を考えていきます。

- ① 保育施設を利用する保護者への支援を充実する
- ② 地域子育て家庭への支援を充実する
- ③ 子育て・子育て支援のネットワークの中で保育施設の役割を發揮する
- ④ 地域の保育機能を強化する
- ⑤ 子育てへの関心を高める
- ⑥ 子育て文化につながる活動を広げる

第7分科会 子どもの心と身体の食育活動を考える ～家庭や地域との連携による食育の推進～

保育所保育指針で「食育の推進」が取り上げられ、子どもが主体的に参加し、食べることを楽しむことが重要視されています。子ども同士、保育士や給食担当者や地域の人たちと一緒に食べたり食事を作ったりすることを経験して子どもが人と関わる力を育てることも求められています。そのためには、調理する人への感謝の気持ちが育つようまた、「美味しく、楽しく食べること」が大切であり、子どもが安心して食べられる環境にあること、保護者との信頼関係や職員間での連携が必要です。

本テーマでは、改めて食を通じた学びの機会を充実させるための保育実践、保護者・地域と連携した食育、食物アレルギーへの対応について研究を深めます。

【助言者】 大妻女子大学短期大学部家政科食物栄養専攻 准教授 小野 友紀 氏

【発表者】

1. 社会福祉法人翼友会 ナーサリー中野の森(中野区)
「食を営む力」の基礎を培う食育の推進～食育クッキングの体験や野菜の栽培を通して「食」への興味を持つ～
2. 社会福祉法人種の会 世田谷はっと保育園(世田谷区)
「～食と共にある暮らし～日常保育の中で育まれる豊かな食生活と子どもの育ち」
3. 社会福祉法人玉蓮院 共生保育園(台東区)
「1歳児・食に向き合う姿」

第8分科会 保育所の持つ機能を保護者支援・地域支援・保幼小の連携に活かして

～子どもにとってより良い育ちを求め その支援を考える～

地域のつながりが弱まる中、核家族化など家庭形態の変化により、子育てに孤立感・孤独感を深めている家庭が増加し、その支援や援助のあり方も様々になっています。保育者は、保護者が子育ての喜びが得られるように、気持ちを読み取る力をつけながら、思いや不安の解消に向け、子育て力の向上につながるよう保育所の機能を活かした支援が求められています。さらに貧困に起因する課題への対応、児童虐待予防など地域の関係機関との連携・協働を持ってすすめるべき取り組みも多々あります。

本テーマでは、子どものより良い育ちに向け、多様な機関との連携・協働の進め方や保育所が果たす役割について研究を深めます。

【助言者】 白百合心理・社会福祉研究所 所長 青木 紀久代氏

【発表者】

1. 社会福祉法人松栄福祉会 羽村まつの木保育園(羽村市)
「保育園が街の中にカフェを作ってみたら～6年間のあゆみ～」
2. 江東区公立保育園 生活リズムpt(江東区)
「就学に向けてこどもの生活リズムを整える～こども達の生活リズムの見直しと改善に向けて～」
3. 目黒区立保育園副園長会(目黒区)
「Meguroの共育をめざして～保護者対応から保護者支援へ～」